



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 12 月 19 (日)
学校の木でマウスパッドを作ろう！ 編

きっかけは、昨年 4 月の防火・防災シンポジウム。「地域協働ですすめる安心・安全のまちづくり」の講演の中で、災害時にもつながる地域連携や地域資源の見直しと活用の事例として、常盤ときめき隊を中心に地域の方々が大学や企業の支援を受けながら、共有林の木材を使って橋やウッドチップ舗装の遊歩道を造られたことを紹介しました。

この時に、二ツ井消防署から講師・防火亭消火さんとして参加されていたのが能代市立第四小学校（以下、四小）PTA 会長の相澤純一さんでした（詳細は平成 21 年 4 月 11 日の活動レポート参照）。

四小は校舎新築のためグラウンド周辺に植栽されていた立派なクロマツが伐採され、あまりの景色の変貌ぶりと周辺への土ぼこりの飛散に心を痛めていた相澤さんは、この先、新グラウンド用地として取り壊される旧校舎敷地内にある樹木をただの廃棄物にしてしまうのではなく、何かに生かせないかと木高研に相談にこられました。こうして 1 年以上にわたる準備を経て、四小の課外週末活動、あかしあくらぶの取り組みとして学校の木でマウスパッドを作ることになりました。

旧校舎周辺の木々の伐採が近づいた 8 月 10 日、木高研が誇るものづくりの専門家、山内秀文・佐々木貴信両先生とともに学校にうかがい、小一時間ほどかけて敷地内を田村育子校長先生と回り、研究所に運んでいただく樹種の選定を行いました。どの木も学校の歴史を物語るにふさわしく立派で廃棄物にするには惜しいものですが、「材料」に適しているものとしてイチヨウ・ケヤキ・ヒマラヤスギなどを選びました。

運び込まれた四小の木は、山内先生の手によりロータリーレースでカツラ剥きににされ、乾燥・裁断されて当日を待つばかりとなりました。



中庭のイチヨウ。まな板にも使われる材です。テープを巻いて印をつけます。蚊に刺されながらも頑張りました。



二宮さんの隣に立つケヤキも選びました。大黒柱から座卓やお盆にまで使われる、木目が美しい高級材のひとつです(左)。旧校舎の職員室前にスクッと大きく育っていたヒマラヤスギも選びました(下)。



伐採された学校の木が長さ 1m に切り揃えられて木高研に運び込まれました(上)。かつら剥きにされた木は試験棟の廊下で自然乾燥させます。前を歩くと樹種による香りの違いがわかります。(下)。



正方形に裁断して乾燥機で乾かし、準備完了です。枚数に余裕がないので、合板づくりに失敗は許されません。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

12月19日午前8時半、日曜日の寒い朝にもかかわらず、4年生以上の児童15人、保護者12人、石川智香子先生、田村校長先生が元気に木高研においでになりました。学校の木がどんなふうになるのか、どうやってマウスパッドを作るのか、みんなとても楽しみにしているようです。

予定や注意事項の説明のあと、いきなり作業開始とはせず、大きな丸太がどのように今日の材料の形になっているのかを知ってもらうため、ロータリーレースがスギの丸太をクルクルとむいていくところを見ていただきました。水分を含んでひんやりと冷たい薄いスギの板が途切れることなくどんどん出てくるのには、みな驚いた様子でした。

こうした薄い板を利用した合板の技術はコンクリートの型枠や住宅などに広く利用されていること、既に古代エジプトの時代から使われていたといった山内先生の説明には、大人の方が興味を惹かれたようでした。

いよいよ作業開始です。今日の作製予定数は150枚。45センチ角のヒマラヤスギの板にゴムローラーでのりを塗り、上下に同サイズのケヤキの板を重ねるだけなのですが、塗り方にも板の重ね方にもコツや方向があって、なかなか気を緩めることはできません。板目に沿ってローラーを動かし、板の向きと表・裏を確認しながら重ねていきます。

それをホットプレスという機械で熱と圧力を加えて接着させ、冷ました後、1枚を20センチ角になるよう裁断していきます。今日の作業で全校生徒分の600枚を作るのですから責任重大です。それでも楽しいうちに、無事に終了することができました。

このあとは、新年になってから学校で各人が作業をします。合板の角や面にヤスリをかけ、思い思いの位置に校章の焼印を押してマウスパッドが完成です。6年生には卒業の記念に、在校生には旧校舎の思い出に長く使ってもらえると嬉しいですね。

文：渡辺 千明

能代市立第四小学校のHP:

<http://www.shirakami.or.jp/~yonsho1/>



見たことのないロータリーレースの動きと山内先生の説明にみなさんの関心度は一気に高まりました。



芯となるヒマラヤスギののりをローラーで延ばし、ケヤキを重ねます。のりに使っている「ふすま」が小麦の糠であることも知りました。



プレス後は、暫く並べて冷やします。



20cm角となるよう切断します。ボタンを押すだけで安全に切れる機械にもびっくり！



あいた時間には、剥いたばかりのスギを途中で切れないようみんなで並べました。